

プラチナ世代の皆さま

いくつになっても人には学びがあり、学びによる社会との繋がりがあります。

プラチナ世代になってから、それまで出来なかった学び、あるいは改めての学び直しを考えている方もいらっしゃると思います。甲子園大学は、「食」と「こころ」を探究している大学です。プラチナ世代の皆さんのこれからの希望とは、心身の健康の維持ではないでしょうか。本学の教育内容は、まさにご自身の心身の健康のための実学を提供します。本学で「栄養」と「心理」を学び、健康で心健やかなプラチナ時代を過ごしませんか？ ※ 本学ではシニア世代をプラチナ世代と称しています。



現在本学にプラチナ世代の学生が在籍しています。皆真面目で意欲が高く、且つ若い学生と良好な関係を築いています。若者とプラチナ世代間に、プラスの相乗効果が生じています。



栄養学部 食創造学科 2年生 岸 紀子 さん（50代）

「大学での学びは社会では得られない学問的な知識が豊富に得られて、また自分が思っていたよりも自由度が高いです。先生方は授業内容のサポートが手厚く、商品開発やコンテスト参加等に協力的で、日々の学びが大変楽しいです。サークル活動では、菜園実習場で自分が作りたい野菜の栽培ができ、猛暑や害虫、害獣などに悩まされながらも無農薬野菜を収穫できた時はとても嬉しかったです。」

心理学部 現代応用心理学科 2年生 飯田 泰介 さん（60代）

「甲子園大学心理学部の少人数での教育環境は、学力に不安のある私にとって非常にありがたいです。当初は社会人を対象とした産業カウンセラーに興味がありましたが、教育・学校心理学の授業で小・中学生の現状について学ぶにつれ、子どもたちへの支援の重要性を認識し、今は教育・学校に関係する心理職を目指しています。社会人経験者（年長者）として日頃の行動や言動、身だしなみに今まで以上に気を使うようになりました。」



心理学部 現代応用心理学科 1年生 岡田 喜代子 さん（70代）

「心理学の講義は、自分自身の人生や体験と照らし合わせることで、とても深く理解でき納得も出ています。これまでの人生で、自分が迷ったり疑問に思ったり、あやふやに過ぎ去っていったことが、授業の学びの中で、その答えを発見できたりする貴重な体験になっています。それが嬉しくてたまりません。いま、自分が磨かれている気がします。この年で、自分がさらに大きくなれそうな気がしています。卒業後は、子どもたちの悩みを聞いてあげられるボランティアの仕事に携わりたいと思っています。」